

男女共同参画 一〇メモ

女性活躍や男女共同参画に関する法律や用語、シンボルマークについて解説します。

女性活躍推進法

平成 27 年 9 月 4 日に施行された正式名称「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」という法律です。性別にとらわれずその人の個性や能力が十分に発揮できること、家庭において男女が相互協力すること、また女性の意思が尊重されることを原則としています。

えるぼし認定

女性活躍推進法に基づき、労働者が※301 人以上の事業主は、女性活躍推進に関する取組を定めた行動計画を厚生労働省に届出する必要があります。行動計画の届出を行った企業のうち、実施状況等が優秀な企業は申請により、厚生労働省の認定（愛称：えるぼし）を受けることができ、商品や広告に付すことができます。

※女性活躍推進法等の一部を改正する法律が成立し、今後 101 人以上に対象が拡大されます。



性別役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方（意識）のこと。職業において、医者やパイロットは男性、看護師や保育士は女性が就くものと考えることや、家庭において家事・育児を行うのは母親の仕事と決めつけることなども挙げられます。

テレワーク

情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。「職場にいる＝仕事をしている」ではなく「成果を出す＝仕事をしている」という考え方をすることにより、移動時間の効率化や多様な働き方の実現を目指すことができます。

高校生と大人たち、あま市で暮らす市民記者が取材しました！

今年で 3 回目となる情報誌の取材をして記事を書いたのは 8 人の市民記者のみなさん。五条高校、美和高校に通う高校生とあま市在住の大人たちがお話を聞きました。取材前にはプロの記者による講座を実施。市民の皆さんが素敵だと感じた等身大の声で作られた情報誌です。

取材は緊張したけど、すごくいい経験になりました。コミュニケーション能力が上達したと思います。



すごくいい経験ができました。この経験を活かしていきたいです。国語の勉強をもっと頑張ります。

高校生と交流できて刺激を受けました。取材も含めて普段、接することがない方の話が聞けて自分の身になりました。



@ MyLife vol.3

くらげ屋 UV レジンアクセサリー工房

くらげ屋は、独身時代の分刻みの生活ではなく、くらげのようにフワフワと余裕をもって生きたいという思いから名付けました。子どもとの時間も大事にしたいので、日中に時間を決めて商品作りをしています。対面販売にこだわっていて、「アクセサリーをつけていたら褒められたよ」、「お小遣いで買いきたよ！」と言うお客様の嬉しそうな姿にやりがいを感じます。

ひとつひとつ真摯に向き合う

お客様に求められる事は全部やりたいと思っています。レジン体験や人気商品の一部は、実はお客様の声から誕生したものです。作った物には最後まで責任を持ちたいので、商品は永久保証。無料交換やお直しを受け付けています。「いつでも会えるくらげ屋さん」として気軽に利用して頂きたいです。

起業したい人に伝えたい！

悩む前にやってほしいです。起業するとき、「自分なんて」という葛藤がありました。それでも、やりたいことを口に出すことで、助けてくれる人が現れ、人の優しさに触れました。家族の理解や協力もあり、息子も「ママの作る物が一番可愛い」と言ってくれています。たくさんの感謝と応援を受け取り、私の中からも感謝が溢れるようになりました。感謝の連鎖が生まれたことで、今も続けることができます。だから、皆さんも周りの人を信頼して、行動してみてください。

【プロフィール】2016 年、くらげ屋 UV レジンアクセサリー工房を起業。2 児の母。マルシェへの出店や、自宅でのワークショップを展開しており、年代問わず人気がある。（くらげ屋 HP http://instagram.com/kurageya_ami）

撮影場所／甚目寺観音 市民記者／栗林亜希、渡部亜美生



市民記者のヒトコト

「人間っていいな」と何度も語る姿に、松下さんの温かい人柄を感じました。

松下さんの元気のワンポイント

目標はつくらない。“私が思う私”になる！

感謝の連鎖でママ起業

松下 亜美さん
まつした あみ

本の魅力を次の世代に

やまぐち ようこ
山口 陽子 さん

読み聞かせとの出逢い

小さな頃から本が好きでした。好きが高じて公共図書館の司書になり、12年間働きました。ある時、小さな子ども連れのお母さんが図書館で読み聞かせをしたいと言われたので、そのお母さんたちと一緒におはなし会をすることに。これが図書館で読み聞かせを始めるきっかけです。今もボランティアとして続けています

本と触れ合う機会をつくる

読み聞かせ中の子どもたちの夢中で耳を傾ける姿がかわいらしくて大好きです。子どもの頃、お話会に参加していた人が、大人になって声をかけてくれることもあります。覚えていてくれるのは嬉しいですね。お話会だけでなく、学校の先生向けに本を選んだり、紹介したりもしています。児童生徒が本に興味を持つ機会づくりをお手伝いするための取り組みです。いろいろな方法で、あま市で生まれた子どもたちに本の魅力を伝えられたらと考えています。

変わりゆく世の中で

最近はみなさんスマートフォンを手にして、本とは違う楽しいことがいっぱいありますよね。では、読み聞かせは必要ない？それは違います。機械の音声ではなく、人の声で伝えることに意味があるんです。人の声の方が子どもたちは受け止めやすい。社会が変化して便利なデジタル機器が増えても、アナログだけが変わらず大切にすべきものがあります。これからもずっと、読み聞かせの文化が受け継がれていって欲しいですね。

【プロフィール】小学校からの本好き。歩き読書をしていて電柱にぶつかったことも。保育士をしていて子どもたちと本をたくさん楽しんだことが、大学の通信教育で司書資格を取るきっかけに。あま市で生まれた子どもに本を手渡す「ブックスタート」などの活動をしている。

撮影場所／美和保健センター
市民記者／美和高校 菅原大空夢、若田部一輝、渡邊来威

市民記者のヒトコト
山口さんはとても優しく、インタビューを通して本に対する真摯な気持ちが伝わってきました。



山口さんの元気のワンポイント

本の読み聞かせが一番の活力！

はじめりは人とのつながりを広げるため

甚目寺中学校のPTA会長として、会社員として働きながら、PTA活動をしています。はじめてPTAに参加したのは、娘が小学生の時でした。よそから甚目寺に引っ越してきて、周りに知り合いも少なかったので、人脈が広がればという思いもありました。役員さんたちに親しくしてもらって、とてもいい経験でした。中学校でも役員になり、「会長をやってみませんか？」とお声がけいただき、総会での承認を得て、就任しました。

楽しく仕事とPTA会長の両立

PTA活動では、役員さんとPTA主催の企画を立てたり、研修会に参加したりします。会長としては、会の総括や学校行事で挨拶することも。平日は会社勤めをしているので、PTA活動と家事をどう両立するかは工夫が必要なところです。家事をまとめて済ませるなど、時間の使い方は試行錯誤していますね。家族が協力してくれるおかげもあって、PTA活動を楽しむことができていると思います。

PTAをもっと身近に感じてほしい

「PTAは大変」というイメージがあって、仕事をしている方や、家の事情がある方は気が進まないかもしれません。でも、役員をすると学校の先生とのコミュニケーションが密にとれて、学校への理解も深まります。子どもを安心して学校に通わせられるようになると思いますよ。大変な仕事というイメージだけではなく、活動の魅力を伝えることで、たくさんの方が積極的に参加できるものにするのが私の目標のひとつです。

【プロフィール】甚目寺東小学校、甚目寺中学校でPTA役員として活動し、2019年度、甚目寺中学校では初めての女性会長となる。会社員としての勤務、家庭、PTA活動、三つの役目を家族や周りの人と協力しながらバランスよく行っている。

撮影場所／甚目寺中学校
市民記者／五条高校 小田晴日、兼瀬りん、保母瑞貴

PTAの楽しさを知ってもらいたい

いのうえ えつこ
井上 悦子 さん

市民記者のヒトコト
取材中ずっと笑顔だった井上さんはとてもPTA活動を楽しんでいるかんじ！



井上さんの元気のワンポイント

趣味での息抜きが日々のサイクルの秘訣！